



長い歴史と文化の伝承

今日は第137回卒業証書授与式でした。卒業生51名が大明小学校を卒業し、新たな一步を踏み出しました。

義務教育は小学校入学とともに始まり、中学校卒業までの教育となります。現在は、小中一貫校であったり、義務教育学校であったりその姿は変化してきています。南アルプス市においては、全ての中学校区において小中一貫校としての取り組みが始まり、甲西地区においても今年度で2年目の取り組みとなりました。小学校6年生から中学校入学へのスムーズな接続や、小中学校の教員の情報共有等その意義や成果は多岐にわたっています。もちろん小中一貫だけではなく、小学校間の交流も積極的に行っています。そして、今日51名の卒業生が新たな一步を踏み出し、期待を胸に中学校へと進学していきました。今年の卒業生は本当に、素直で優しい子供たちでした。それは、4月の入学式の準備の時から感じていましたが、今年1年最上級生として下級生と関わったり、他校の子供たちと関わったりしながら大きく成長していきました。誰に対しても分け隔てなく接する姿勢や、一人一人がお互いを尊重し、切磋琢磨する姿に何回も感動してきました。もちろんその姿を支えてきたのは、各御家庭の保護者であったり、地域の方々であったりすることは間違いありません。学校としても少しばかりお手伝いさせていただき、皆で連携することができたことに深く感謝しております。137年もの長い歴史と文化を受け継いできた学校として、子供たちの成長と益々の発展を願っています。また、卒業していく子供たちは、先輩たちが紡いできた伝統を絶やすことなく、後世につないでいく責任もあります。今年1年、その責任を十分に果たし、大明小学校の伝統を受け継ぐことができました。51名の卒業生は、伝統を紡いできた先輩方と一緒に10,868名の卒業生の一人として、大明小学校を支えています。卒業生の皆さん、改めて卒業おめでとうございます。そして、これからの活躍に期待しています。

さて、次は残った子供たちが伝統を受け継ぎ、後世につなげていかなければなりません。今後も保護者の方々、地域の方々のお力をお借りして、学校としても全力を挙げて子供たちの成長を支えていきます。今後とも変わらぬ御支援と御協力をお願いします。

「卒業証書」

谷川俊太郎

ひろげたままじや持ちにくいから
 きみはそれをまるめてしま
 まるめただけじゃつまらないから
 きみはそれをのぞいてみる
 小さな丸い穴のむこう
 笑っているいじめっ子
 知らんかおの女の子
 光っている先生のはげ頭
 まわっている春の太陽
 そしてそれらのもつとむこう
 星雲のようにこんどんとして
 しかもまぶしいもの
 教科書にはけつしてのつていず
 蛍の光で照らしても
 窓の雪ですかしてみても
 正体をあらわさない
 そのくせきみをどこまでも
 いざなうもの
 卒業証書の望遠鏡でのぞく
 きみの未来